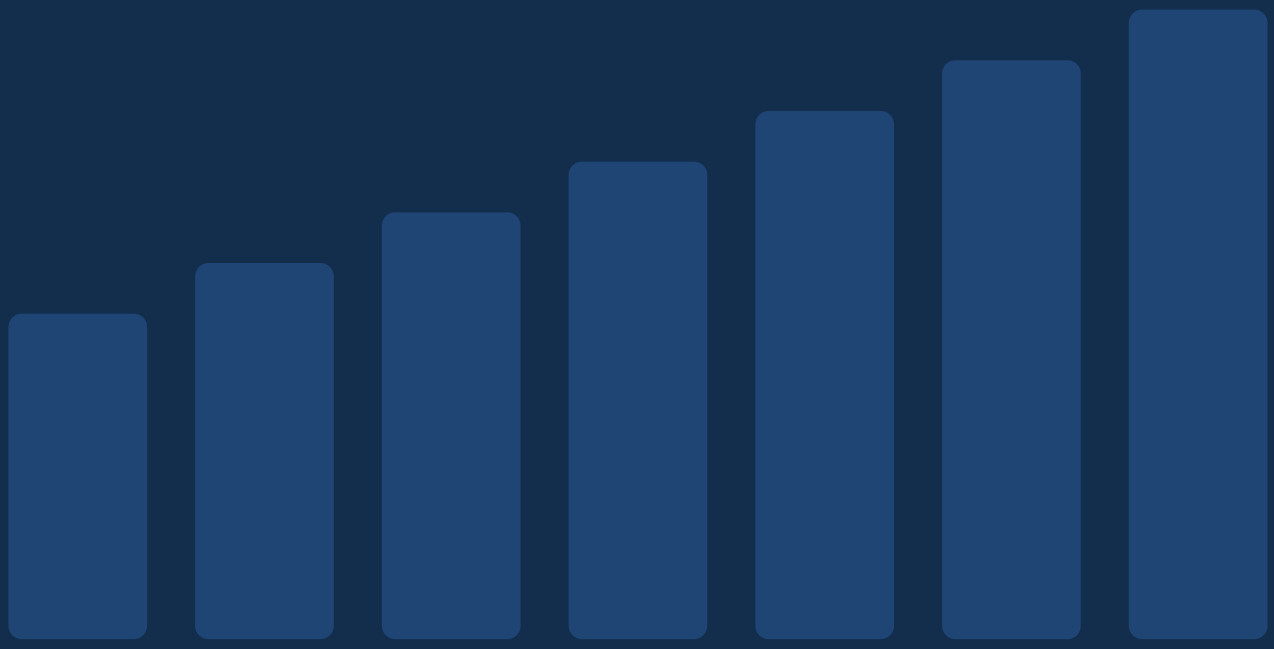
HokenPass

保健師国家試験

直前7日パック

過去問で迷いを見つけ、翌朝に解き直す。

Day 1 無料サンプル｜解答・解説つき



7日間の復習ワークブック

疫学・スクリーニング

Day 1

検査の数字は、誰を数えるかで変わる



場面 地域の検診で、500人が同じ検査を受けたとします。これは計算用の架空例で、実在の検査の性能値ではありません。結果を説明する保健師は、検査で陽性だった人数と、その中で実際に疾患があった人数を分けて確認します。

1 まず、500人の内訳を書き出す

疾患がある人は20人、ない人は480人。感度は75%、特異度は95%とします。疾患のある20人のうち15人が陽性。疾患のない480人のうち456人が陰性なので、残る24人は陽性です。この4つの人数を表に移します。

図1 同じ「15人」を、どの集団で割る？

読む方向	疾患あり	疾患なし	陽性反応的中度の分母
検査陽性	真陽性 15	偽陽性 24	15＋24＝39
検査陰性	偽陰性 5	真陰性 456	—
性能指標の分母	感度：15＋5＝20	特異度：24＋456＝480	—

陽性反応的中度は陽性の行、感度は疾患ありの列を見ます。分子は同じ15人でも、分母は異なります。

2 問いの言葉を、表の方向に変える

「疾患がある人のうち陽性」なら、疾患ありの列を下まで数える。感度は15÷20＝75%。

「陽性だった人のうち疾患あり」なら、陽性の行を右まで数える。陽性反応的中度は15÷39＝約38.5%。

右ページでは、検査の性能を固定して、有病割合だけを変えます。

Day 1

例題 検査は同じ、集団が変わったら

3 有病割合が異なる500人の集団で考える

例題 疾患のある人が60人、ない人が440人の集団を考えます。感度75%、特異度95%は同じと仮定します。陽性者は何人で、そのうち何%に疾患がありますか。

手順	この例での計算	得られる人数
疾患ありの列	60人×0.75	真陽性45人
疾患なしの列	440人×(1−0.95)	偽陽性22人
陽性の行	45人＋22人	陽性67人

答え 陽性反応的中度は45÷67＝約67.2%。左ページの約38.5%から上がりました。ここで固定したのは感度・特異度、変えたのは疾患のある人の割合です。

4 条件を変えて、自分で説明する

A 500人中、疾患がある人は40人。感度75%、特異度95%。真陽性は①人、偽陽性は②人。陽性反応的中度は約③%。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿　② ＿＿＿＿＿＿＿＿　③ ＿＿＿＿＿＿＿＿

B 例題と同じ集団で陽性判定の範囲を広げたら、真陽性は51人、偽陽性は44人になった。陽性反応的中度は約①%。変更前の約67.2%より②。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿　② ＿＿＿＿＿＿＿＿

次ページは穴埋め演習です。見開きの解答は本文10ページ。

過去問へ戻る

第108回 午後24問で分母、第112回 午前30問で有病割合、第107回 午後19問で閾値の変更を確認。穴埋めの後に、本文5ページで選択肢別の解説を読みます。

翌朝の3分テスト（本文7ページ）

穴埋め演習 1｜疫学・スクリーニング

設問の①・②に対応する罫線に答えを書きます。迷った問題には△を付け、過去問のあとに見直します。

1-01 陽性50人中、疾患ありは15人。検査が陰性だった疾患ありは5人。感度は①%、陽性反応的中度は②%。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　② ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1-02 疾患なし80人のうち、陽性は12人。陰性は①人、特異度は②%。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　② ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1-03 疾患あり40人、なし160人。感度75%、特異度95%とする（架空例）。陽性者は①人、陽性反応的中度は約②%。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　② ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1-04 疾患あり25人中20人が陽性。感度は①%。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1-05 真陽性12人、偽陽性28人。陽性反応的中度は①%。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1-06 同じ集団で閾値を変え、真陽性が12人から15人、偽陽性が8人から15人になった。上がるか下がるかを答える。感度は①。陽性反応的中度は②。

① ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　② ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

過去問 108回午後24 112回午前30 107回午後19

過去問の解説（本文5ページ） 穴埋めの答え（本文11ページ）

過去問冊子｜Day 1 の対応問題

選んだ番号を書き、選択肢で迷ったら判定欄に△を付けます。正解しても△は残します。

第108回 午後24問

検査で陽性と判定された人のうち実際に疾病を有している人の割合を示す指標はどれか。

1 特異度
2 敏感度
3 有効度
4 偽陽性率
5 陽性反応的中度

解答 _____ 判定（迷ったら△） _____

解説へ 厚生労働省の原本

第112回 午前30問

同じスクリーニング検査を有病率(有病割合)が1%の集団Aと20%の集団Bに行った。
評価指標と集団の関係について正しいのはどれか。

1 特異度は集団Aより集団Bの方が高い。
2 敏感度は集団Aより集団Bの方が高い。
3 集団Aと集団Bで評価指標は一致している。
4 陰性反応的中度は集団Aより集団Bの方が高い。
5 陽性反応的中度は集団Aより集団Bの方が高い。

解答 _____ 判定（迷ったら△） _____

解説へ 厚生労働省の原本

第107回 午後19問

同じ集団における同一のスクリーニング検査で、基準値を変えて敏感度を上げた場合に上昇するのはどれか。

1 特異度
2 偽陽性率
3 偽陰性率
4 陰性者数

解答 _____ 判定（迷ったら△） _____

解説へ 厚生労働省の原本

Day 1

過去問と選択肢別解説

過去問を解く（目安4分）

第108回 午後24問では「誰のうち」を抜き出す。第112回 午前30問では、両集団で何を一定と考えるかを書く。第107回 午後19問では基準値を変えたときの変化を考える。

選択肢別に見直す

第108回 午後24問（正答5） 1（特異度）と4（偽陽性率）の分母は疾患のない人、2（敏感度）の分母は疾患のある人。3（有効度）は全検査者に占める正しく判定された人の割合。5は陽性者全員を分母とする。

第112回 午前30問（正答5） 1の特異度と2の敏感度は、この設問では同じと考える。3は、検査性能が同じでも的中度が異なるため誤り。Bは有病割合が高く、4の陰性反応的中度は低くなる。5の陽性反応的中度は高くなる。

第107回 午後19問（正答2） 感度を上げるため陽性と判定する範囲を広げると、1の特異度、3の偽陰性率、4の陰性者数は下がる。2の偽陽性率は上がる。書き込みBでは22÷440＝5%から44÷440＝10%に上がる。

分母を取り違えたら、章の冒頭にある2×2表で、どの行・列を数えるか確かめる。

その場で解く 6分

見開きの例題を閉じて、同じ条件で表を再現する。500人のうち疾患がある人は60人、感度75%、特異度95%。次の表を埋め、陽性者数と陽性反応的中度を求める。

検査結果	疾患あり	疾患なし
陽性		
陰性		

一行記録 2分 記入例

陽性者・陰性者・疾患のある人・疾患のない人から、分母にする集団を選んで書く。

陽性反応的中度の分母は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の人数である。

△を付けた問題から1問選び、迷った理由を前日用シートに書く（本文8ページ）。

その場の演習の解答（本文10ページ） 翌朝テスト（本文7ページ）

補足A｜研究の向きと比較の落とし穴

疫学の補足

コホート研究は、曝露群と非曝露群の疾患の発生リスクや罹患率を比較する。症例対照研究は疾病の有無から出発し、過去の曝露を比較する。測定した結果が選ばれ方や思い出し方に左右されていないか考える。

対象者をどう選ぶか	→	何を比較するか	→	どこで偏りが生じるか

例題の考え方

疾患あり群だけ過去の曝露を詳しく尋ねると、対照群と曝露情報の得られ方が違う。差を見つけても、情報の測り方で見かけの関連が生じていないか検討する。

条件を変えて考える

練習 対象者を疾患あり／なしで集め、過去の曝露を調べた。研究デザインは（　　）。二群で質問方法が違うと起こり得る偏りは（　　）。

解答・根拠

解答の例 症例対照研究。情報バイアス。測り方の違いによる比較の偏りを疑う。

Day 1

翌朝の3分テスト

前日の図と解説を閉じて解きます。設問で求められた答えと、その判断の根拠を書きます。

翌朝 地域の検診で400人が検査を受け、疾患がある人は20人だった。感度70%、特異度95%とする（架空例）。陽性だった住民から「陽性と出た人のうち、実際に疾患がある人は何%ですか」と聞かれた。① 指標名、② 割合、③ 分母に含める人を答える。

解答・根拠

採点して残す

1 解答編と比べ、書き直したい点があれば一つ書く。（　　）

解答・根拠

2 判定（○・△・×） 見直す設問・論点（　　）

解答・根拠

○はすべて正解し根拠も説明できた、△は一部正解または根拠が曖昧、×は正解なし・未回答。△と×は解答編と照合し、該当する章でつまずいた箇所を確認します。

3 本番で見る合図（　　） 次にすること（　　）

解答・根拠

翌朝テストの解答（本文10ページ）

前日用シート｜Day 1

第108回午後24問で、⑤の陽性反応的中度と②の敏感度（感度）で迷い、⑤を選んだとします。正解を確認したら、迷った問題に△を付けます。

△を付けたあとにすること

選択肢別解説に戻り、⑤は陽性者全員、②は疾患のある人全員が分母だと確認します。次に、試験当日にどの言葉を見たら何を数えるかを、シートに書きます。

記入例｜第108回午後24問

欄	記入例
問題番号・テーマ／戻るページ	第108回午後24問（△）・検査指標／Day 1の選択肢別解説
私が間違えた判断とその理由	陽性者全員と、疾患のある人全員を混同しそうになった。
本番で見る合図 → 最初にすること	「陽性と判定された人のうち」→ 2×2表の陽性の行を合計して分母にする。

自分の△を1問書く

解説を見て、△を付けた問題を1問選びます。正解していた場合も、どの選択肢で迷ったかを書きます。

問題番号・テーマ／戻るページ

迷った選択肢・理由（または間違えた判断・理由）

本番で見る合図 → 最初にすること

過去問に戻る 108回午後24 112回午前30 107回午後19

選択肢別解説へ 健康危機管理の体験問題へ

健康危機管理｜本編の模試から1問

大雨で避難所が開設された。市の保健師が巡回を担当する。開設当日、緊急の外傷や急変を訴える人はいなかったが、自宅に薬を置いたまま避難した人が複数いた。

17時、3人から薬の相談があった。全員に急変はない。Aさんは18時に薬が必要で、家族が17時半に届けると確認できた。Bさんは20時に必要だが手元になく、処方を確認できる医療機関の電話受付は17時半までである。Cさんは翌朝までの分がなく、明朝にかかりつけへ連絡できるが、服用予定時刻に間に合うかは不明である。保健師が最初に行うのはどれか。

1 Aさんの薬が家族から届くまで待ち、届いたことを確認してからBさんの調整に移る。

2 Bさんの薬の情報を確認し、受付が終了する前に医療機関に連絡する。

3 明朝の中断を防ぐため、まずCさんが受診できる医療機関を探す。

4 3人の処方内容と連絡先を一覧にしてから、服用時刻が早い順に連絡する。

選んだ番号

判断を決めた時刻と条件

解答・選択肢別解説へ

解答編｜Day 1

見開きの書き込み問題

Aの記入例は①30、②23、③56.6。Bの記入例は①53.7、②下がった。Bでは陽性者は51＋44＝95人。陽性者に占める偽陽性の割合が増え、陽性反応的中度は51÷95＝約53.7%に下がった。

過去問・その場の演習

・ **過去問** 第108回午後24問は陽性反応的中度、第112回午前30問はBの陽性反応的中度がAより高い、第107回午後19問は偽陽性率の上昇。

・ **その場** 真陽性45人、偽陽性22人、偽陰性15人、真陰性418人。陽性者は45＋22＝67人。陽性反応的中度45÷67＝約67.2%。数値は架空例。

翌朝の3分テストの解答

① 陽性反応的中度。② 約42.4%。③ 検査で陽性だった人全員。真陽性は20×0.70＝14人、偽陽性は380×0.05＝19人。14÷（14＋19）×100で求める。14÷20は疾患のある人を分母にした感度になる。

一行記録の記入例

Day 1 陽性反応的中度の分母は、陽性者の人数である。

前日用シートの記入例へ 穴埋め6問の解答へ

健康危機管理の解答・解説

正答 2 Bさんは服用が20時でも、調整を始める期限は17時半。Aさんは服用が早いが薬の到着を確認できており、1で待つとBさんの受付に間に合わない。Cさんも当日中に翌朝の手配が必要だが、3よりBを先に調整する。4の一覧化は引継ぎに役立つが、服用時刻順では受付期限を逃し得る。

体験問題に戻る

穴埋め解答・解説｜Day 1

1 疫学・スクリーニング

1-01 記入例 ① 75 ② 30 **補足** 感度は15÷(15＋5)、的中度は15÷50。①に30を書くと、分母に陽性者全員を使った誤り。

1-02 記入例 ① 68 ② 85 **補足** 80−12＝68、68÷80＝0.85。

1-03 記入例 ① 38 ② 78.9 **補足** 真陽性30人、偽陽性8人。30÷38で求める。

1-04 記入例 ① 80 **補足** 20÷25×100。

1-05 記入例 ① 30 **補足** 12÷(12＋28)×100。

1-06 記入例 ① 上がる ② 下がる **補足** 疾患ありの総数は同じで真陽性が増えた。的中度は12÷20＝60%から15÷30＝50%へ低下。

穴埋め演習に戻る 翌朝テストの解答へ

本編で続ける

直前7日パック本編は、全89ページの書き込み式PDFです。保健統計、地域診断、母子・学校・産業保健、法規、健康危機管理の演習、仕上げの模試20問と前日用シートを収録しています。

本編の内容・購入はこちら

出典・権利・免責

過去問は厚生労働省が公表した保健師国家試験の問題をもとに、誌面に合わせて表記を調整しています。厚生労働省とは関係なく、同省が監修・推奨するものではありません。解説・図解・演習はHokenPassが作成しました。このサンプルは、内容を変更しない形でのご紹介・共有ができます。本書は学習の支援を目的とし、合格を保証するものではありません。法令・統計・出題基準は改正・更新されるため、最新の公的情報もご確認ください。誤りのご指摘はお問い合わせへ。